

コープ災害ボランティアネットワークニュース

【87号】2016年12月

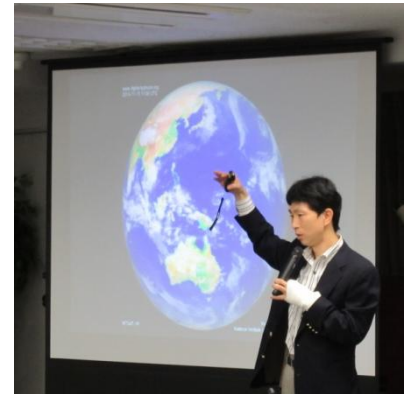
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL: 03-3383-7800

9月1日の防災の日を中心に、東京都や各地域、また所属団体では減災・防災に関する催し物や学習会など様々行なわれている事と思います。東京都生協連やコープ災害ボランティア幹事会で取り組んだ最近の活動についてお知らせします。

学習会報告

気象予報士に聞く！豪雨・竜巻・川の氾濫！身をまもるには・・・

11月19日(土)コープみらい新中野を会場に、NPO 法人 気象キャスターネットワーク 水越祐一氏を講師に迎え、身近なお天気と地球温暖化のお話や、防災情報を利用して気象災害から身を守る方法などを学びました。参加者は、36名でした。



講師：水越祐一氏
地球温暖化と異常気象について説明

<当日スケジュール>

- 10:00～ 開始
- 10:05～ 講演 『身近なお天気と地球温暖化』
～防災情報を利用して気象災害から身を守ろう～
- 11:25～ 休憩
- 11:35～ ワークショップ
「経験したことの無い大雨、その時どうする？」
- 12:20～ アンケート記入
- 12:25～ 講座振り返り
- 12:30～ 終了

地球温暖化による異常気象

温暖化＝水温上昇→強い台風の増加

身近なお天気が、地球温暖化によって異常な気象を引き起こしている事を学びました。「異常気象」というには、気象庁の定義では、30年に1度以下の現象を表す時に使っているそうです。短時間強雨が増えていることもその影響と考えられており、講師の見解として、鬼怒川の堤防決壊や広島土砂災害時の気象レーダーの雨雲の動きや、市町村の災害情報などの分析から、『線状降水帯』が原因であったと説明されました。

これについては、ある程度予測可能なことから避難を呼びかける基準となり得るとのこと、川の水位は急激に変化するため、川の周辺には近づかないことなどを、最近の気象災害・被害の様子を動画で説明されたので、参加者にはその恐さが良く分かりました。

また竜巻の被害も同様で、日本ではあり得ない現象と捉えていましたが、容易に起こりうる災害と認識し、情報をいち早くキャッチするよう日頃から学習することが減災・防災に繋がると話されました。



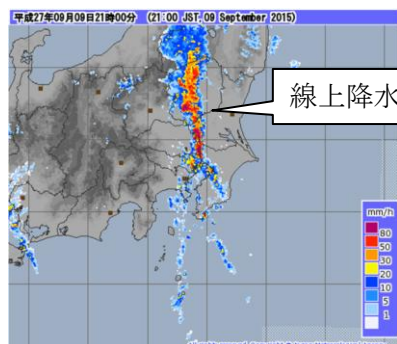
竹内東京都生協連専務理事・開会挨拶



大矢代表幹事から企画の目的説明

➤自然災害が増えているこの頃、15年間のCO2養成講座で会員は約500名超になっている。今後の活躍に期待しています。

➤災害という地震と違ってしまいがちだが水害も多くなってきている。この機会にたくさんの方の事を学び、自分の地域や所属団体に対し、学んだことを広げていってほしい。



2015年9月10日関東東北豪雨被害

情報を利用し災害に備えよう		
1日前	大雨に関する気象情報	大雨注意報
半日前	大雨警報	はん濫警戒情報
数時間前	土砂災害警戒情報	はん濫危険情報
災害発生	大雨特別警報	はん濫発生情報

外では特にこんな時に注意！

- まっ黒い雲
- 急な冷たい風
- 大つぶの雨とひょう
- カミナリの音や光

情報キャッチからの防災行動計画『タイムライン』

いつ、だれが、どのように、何をするのか、あらかじめ決めておくこと！！

- ◆運休決定◆臨時休業
- ◆臨時休校◆危険箇所確認
- ◆危険箇所補強◆避難所設置
- ◆早めの避難など

台風上陸 24時間前

ワークショップ「経験したことのない大雨、その時どうする？」



住所は台東区(浅草寺の側)、住居は、一戸建てやマンションの2階など、家族構成は、両親と子どもが2人と車いすの祖母など(ペットがいる家も…)と仮定し、ハザードマップを見ながら意見を出し合いました。その条件で経験したことのない大雨、参加者の意見は？

家族構成や住居の条件はカードで決めて話し合いました。

- ①◆避難する？家にいる？
- ◆どこに避難する？家でどうする？
 - ◆考えられる危険は？
 - ◆家族で助けが必要な人は？どんな助けが必要？

- ②◆翌朝、はん濫発生！特別警報も発表。
みなさんの家族はどうなっている？
- ◆どんな行動を取る？

翌朝は、すべて水没してしまっているかも？と、マップを見て愕然とする参加者もいました。だとしたらどんな手だてが必要なのか？ワークからいろいろな課題が見えてきました。生活弱者と呼ばれる身体に障がいのある方の対応やペットのこと、備蓄の内容や避難所での暮らし方など、1つ1つ不安をなくして災害に備えることをしていかなければと気付かされるワークになりました。

<アンケートから>

- ・情報入手し、それを基に的確に行動することが大切なのだと思った。
- ・洪水対応のワークショップは初めてで、地震災害との違いを感じた。
- ・自分の居住地を想定した避難を考えることができた。
- ・地域連帯の重要性や備えを学んだ。
- ・情報を得てそこから正しい判断をくだす事が身を守り、家族を守ることになる。
- ・他人任せにせず、もっと興味を持って情報を使い、予測する力を学びたい。



車いすの父を連れ出すのには家族だけでは困難…どうすればいい？

避難所より食料を備蓄している家にいる。

高層住宅の5階なのでとりあえず自宅待機

▶家族で地域のハザードマップをみながらこのワークをしてみよう！たくさんの事が見えてきます。

《講師よりまとめ》

どれが正解ということがないのが現状。自分の地域のハザードマップなどを見て、家族で話し合っておくことが大切。そこから備蓄するものも見えてきます。



野崎 CO 災ボ副代表幹事からまとめ

▶防災の心理学とは、パニックにならないための心理。そのために日頃からの心構え、訓練が重要です。何かがあるかもしれないということを考えておくことが大切。

■ CO 災ボ会員のみなさんで普通救命受講から3年経過しそうな会員の方々に、事務局から再講習を受けていただくお知らせを毎年秋にさせていただきます。今年、10月15日(土)9:00~12:00に中野消防署で5名の参加者が再講習を受講しました。救命技能を維持向上させるために3年以内の再講習が促されています。みなさんの地域の消防署でも講習を実施していますので、区報や市報などのお知らせで応募されますと、近くで受けられます。認定証をご確認の上、3年が過ぎている方は再受講をお勧めいたします。

■ 10月23日(日)練馬区の光が丘公園、芝生広場において「避難者と支援者による2016ふれあいフェスティバル」が行なわれました。CO 災ボから3名の会員がボランティアとして参加。被災者のブースで喫茶のお手伝いや被災者が手作りしたバッグや小物の販売を担当しました。秋晴れの一日、広域に避難されている被災者の方々の楽しい交流の場となりました。



《前号ネットワークニュースでのアンケートに返信がありました！！》

自区である渋谷区の防災についての講座を受講。LGBT 他、小さいお子さんを持つ人、高齢者、女性、障がいのある人など、立場、立場で自然災害、特に大災害に見舞われた際に、いかに減災にさせるか、東日本大震災を経験し、活動されたお立場である講師からお話を伺った。後半はグループワークで、避難所の運営にあたり、問題が起きそうな立場を1グループごとに5つ選び、それぞれ考え得る問題点をどんどんあげていき、それに対する対処方法を考えた。私も日頃から避難所で起こり得る問題点はシミュレーションしていたし、他の参加者は仕事で各自、活動されている方々ということもあり、かなり積極的に意見交換できて、ためになった。やはり自分で考えるより、複数で考えると、深く多角的に広がるので、グループ学習の重要性を実感した。 榎並砂苗さん (8期生)

ありがとうございます。共有させていただくことで気づきになります。みなさんのご意見等お待ちしております。